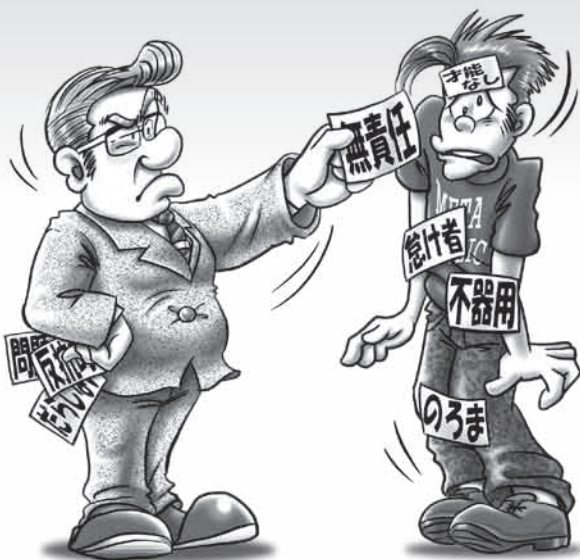


レッテルを貼ってはいませんか？



私たちは様々なものにラベルを貼ります。内容を表示したり、品物や書類を分類するのに便利だからです。ところが、知らず知らずの内に、人にも「ラベル」を貼ったりしていないでしょうか。まるで商品にラベルを貼るように、人の性格を表示したレッテルや、子供たちを分類するレッテルを貼ってしまうのです。「あの人は、そういう人なのよ」とか、「あの子は、いつもこうだから、そんな事できこないだろう」という具合に。

しかし、それをすると二重のダメージが生じます。一つには、それを聞いた人が、レッテルによってその人物を判断することによって、人間関係が制限されてしまいます。人の見方は千差万別ですし、個人的な感情が絡んでいる場合には、レッテルは随分と偏ったものとなりえますが、それについて聞いた人は、その偏った見方に縛られてしまうのです。

もう一つのダメージは、レッテルを貼られた本人への影響です。嫌な気持ちができるだけでなく、その人は、ともすると、いっそうレッテル通りの人間になってしまうことがあります。私たちは、誰かが自分について言うことを信じ込んでしまう傾向があるからです。だ

から、レッテルはその人の将来を妨げてしまうのです。

これは親子の会話でもよく見受けられます。例えば、子供にしょっちゅう「お前は、のろまだな！」と言うなら、その子供は、「どうせ僕はのろまだから・・・」と考え、頑張ろうという気力もそがれてしまうのです。

他人に貼られたレッテルによって、人の可能性が阻まれてしまうとは、何と悲しいことでしょうか。神は、一人一人の人間を特別に造られました。誰一人「偶然にできてしまった」わけではありません。聖書に、「わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリスト・イエスによって造られたのである。」(エペソ2:10)とあるように、神は目的を持って、一人一人を丁寧に創造され、その中に独特の可能性を埋め込まれます。だから、親や教師、周囲の人たちの責任とは、お互いの良さや可能性を引き出すことなのです。否定的なレッテルを貼られていたにも関わらず、その人の可能性を信じてくれた誰かがいたことで、偉業を成し遂げた人も沢山います。誰かに否定的なレッテルを貼ってしまうのは、まるで、その人を檻に閉じ込めてしまうようなものです。

でも、「そうは言っても、確かにあの人はいつもこうなんだから・・・」と思う場合もあるでしょう。しかし、人の判断とは、往々にして表面的なもので、真に人の心の中を理解できるのは、神だけです。「わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔形を見、主は心を見る」(サムエル記上16:7) その上、神の力があれば、今までどんな人間であったとしても、変わることができるのです。神は、人が一生、学び成長し続けるようにと計画されたからです。

だから、誰かにレッテルを貼ってしまっていると気づいたなら、または、自分がレッテルに縛られていると感じるなら、自分のことも他の人のことも、神の愛の目を通して見られるように祈り求めて下さい。そうすれば、レッテルの束縛から解放されて、お互いの可能性を引き出すことができるでしょう！